



## 託兒所にありて感じた事ども

高 梨 花 子

赤いおべべに眞白なエブロンバナマの帽子のリ  
ボンもゆれて、バスケットの御辨當に可愛い、思  
ひを描きながら楽しいお庭に朝を向へ夕を送つて  
日毎に成長して行く美しい兒の、みのりを想はない  
ではなれません。

眞黒な石ころも名工の磨きにかゝれば赤くも青  
くも白くもなります。しかしどんな名高い磨き手  
でもルビーをサファイアにダイヤモンドをエメラ  
ルドにかへる事は不可能です。無瑕な玉はそれ  
／＼廣い範圍に珍重され利用されてをります。

私共幼い人々の保育に微力をさゝぐる者は、い  
づれも磨工でなければなりません。人間生活の

繁道へ門出を初めたばかりの人達は垢も塵も無い  
美そのものです。想像の世界に生き、模倣と追及  
の連鎖の主體です。

よく心ない棒切れと愉快そうに話しをしてをり  
ます。對人無しに一人でいく二人分の言を弄して  
現實の人との會話よりいとも流暢にやつてのけて  
をる事も見ます。時には玩具の犬に追ひかけられ  
て大聲を上げてビツツリさせられる事もございま  
す。人形の命令によく服従して動作をすると云ふ  
様な實に藝術そのものゝ表示であり詩の生活では  
ありますまいか。

七歳の兒よく赤兒になり泣いたり、わめいたり

します。四つんばいになつてワン／＼となきながら室の四隅をはつてゐるきます。お積木をかついでならば、お口のラツバを吹いて教練をする、輪にした紐の中に五、六人は入つて「チン／＼うごきます、ガタ／＼／＼」はする。お醫者様のまねは御上手、「お口あけでごらんさい、コト／＼／＼」小さな御父様御母様にはたくみになりすまし、はては幼稚園ごつこが小さい椅子のオルガンで初まります。いづれも無我の境には入つてをりますが、こうした生活を彼等から引き抜いてしまつたならば他に取上げる物がなくなつてしまひます。經驗のうすい兒童には模倣こそ自然の要求でございませう。

かつて私共の所の或子供の喧嘩をとめました時こう申しました「○○ちゃんのおなかの中に鬼がゐますねそれがあはれ出したもんだからお顔まで鬼の様にこわくなつてよ、豆まきの時すつかりお

ひ出せなかつたんだわ、さあ今すぐおひ出しておしまひなさい。」とするとその子は「あたいのところの父ちゃんと母ちゃん夕べ喧嘩したの父ちゃんお酒のんで母ちゃんとこぶつたの」とさも私の言に不満あるらしく何の臆面もなくうつたへるのでした。子供が一番崇拜し且つしたふてゐるものを批難された時のよるべない感情をあらはにして……しかし之位私を失望させ戦慄させた事があつたでせうか。純心な兒童の言語動作は凡てその母その家庭の反映です。之ではどんなに獻身しても水泡に歸する事はまぬかれませぬ。一時に光明をうばはれた感をもりました。

又或時の事です「先生！先生！」としきりによんでゐますが用事にまぎれて無言でをりました。「先生としちゃんがブランコに板のせてうごかしてますよ」……………「先生ーッ先生ーッ」……………「先生としちゃんはね、としちゃんはねブーラン

コに板載してしちやいけない事してゐるの「……  
 ……」先生！先生！ツテバ「はいはい」と返事を  
 する迄いつまでもつゞけてゐます。この心こそ向  
 上して進歩して行くところの大なる要素でありま  
 せう。今自分にこうした半分の追及心も見へない  
 のは大方園藝家の技倆に因しはすまいかと思ひた  
 くなります。心ない自我から「うるさいね」とか  
 「よく人の眞似をする兒だね」とか又はよいかげ  
 んな返事できりぬけ様とする様な、崩出づる若芽  
 を一々折たくないものです。

こうして教育に何の形式もなく遊戯の中にとゞ  
 人格のふれ合ふばかりを力にして社會生活の基調  
 を知らせ春をよろこび夏をしたひ秋を歌ひ冬を知  
 り神の御聲をきく得る詩的生活への門出をしつく  
 りとふみしめたいものです。きたない皮を幾枚も  
 幾枚も取のけば美しい眞白な味ふて美味な實のあ  
 らはれてくる筈の子の様な人が望ましうございま

す。上皮を去ればたゞけがれた、一塊の肉の残る  
 ばかりでは宇宙にいきづいてゐる事は物體ないこ  
 とです。

勿論園にありましてはその兒童の教育の權は私  
 共にあり、家にありましてはその父母にあります  
 前にも申しました様な極端な表はれは別としても  
 一言一句一舉一動よく母なり姉なりを眞似るもの  
 でその兒の缺點は即ちに自分の缺點であると迄の  
 確心をもちたいものです。ですのに子供の前で酒  
 をのむたり喧嘩をするのは言にあまつてをります  
 いかにも私共が逆ちになつてさわいだところで元通  
 りの事で、さわいたゞけが浪費です。こうなると  
 母さんの教養が先きか兒童の教育がさきかによま  
 ひます。常に動きつゝある社會に生きてゐるには  
 絶えず研究を要します。一週に一度二三時間をさ  
 いて愛兒のために教育の成功失敗、その他の經驗  
 なり、方針なり理想なりと闘論し、又今後教育を

する上に力になる様な高見をうかゞつたりするお母様の會をひらいて兒童の教育に心がけたいものです。

どこまでもゆるめばゆるまるし、引けば引きしまる純な子供の心をとらへて調子よくやつて行けるその調子こそ兒童教育の秘訣ではあるまいかと思はれます。

今更幼稚園の要不要をとやかくするのは時代錯誤の感があります。幼稚園をとかく贅澤としてあつかひ徒らに時代の風潮に押流され、虚飾の道具に愛兒を用ふるに至りましては大いに不満です。幼稚園をホントに研究していただきたいうございませぬ。

私共の託兒所にありましてはこゝは生存の必需品です。贅澤どころではありません。入所に際し母にその理由を聞きますに(一) 仕事に行くとき後にくす事が心もとないから、(二) 内職の邪魔

になるから、(三) 家にゐると小使をつかつてやり切れぬから、(悪習慣がついて性格の上に面白くない結果を産むからと云ふ考へでなくと經濟の事のみ考へて)と云ふ三種の理由にまとまる。生存のためには、他階級の親より一倍盲愛をさぐる兒を他人の手にすら放すのであります。こうして境遇の上に特種の色を帯びた子供のためには幼稚園の目的の外にまだ重大な務めを、になつてゐる様に思はれます。狭い不潔な家に授拳教育をのみうけてゐる幼な兒をその親に代つて強くしかもやはらかな春陽の一ばいにめぐむオアシスに置かへてやる事は、私共社會人の責任ではありませぬ。堀つてもさらつても泥水のさらひきれない感のするこゝした仕事をしてゐる者は強い信仰をもつて祈りの生活に精進して行きたいものです。